



仕事を通じて生きた経営を学ぶ日々、 夢は優れた経営者になって後続く人材を育てること

プロフィール

ブラジル北部パラ州出身。ブラジルの治安が悪化し、9歳のころ強盗に入られたのをきっかけに、91年来日。言葉が分からず戸惑いの連続だったが、日本人に追いつこうと勉学に励む。高校・大学に進学した後、日本企業に就職。2003年から父が経営する外国人向けスーパーPATRIA MINHA（パトリア・ミンニヤ：「故郷」という意味のポルトガル語）で働き始める。

められましたか？

ゆくゆくは自分の会社を興したいということで、経営の勉強ができる経営コンサルタント志望でした。第1志望の会社を落ちてしまい、結局就職したのは記帳代行の会社でした。コンサルタント業務とは違っていただけ、どうしても好きになれず辞めてしまいました。でも、入社してみて日本企業はとても優れていると思いました。話し方や礼儀など厳しい教育を受けましたが、今でも非常に役に立っています。

今後のビジョンについてお聞かせください。

今年中にもう1店舗を開いた後、2年以内にもう2店舗を開きます。合計5店舗のお店を構えるのが当面の目標です。私の個人的な目標は指導者となって経営者を10人育てること。そして育った経営者がブラジルでも活躍してくれればと思っています。

日本に暮らしていて文化の違いを感じられることはありますか？

大まかな違いはあると思います。日本人の多くは「あまり目立ちたくない、他人と同じでいい」と思っているような感じがします。要するに出る杭にはなりたくない、と思っているのではないのでしょうか。逆にブラジル人は自由に物事を考える方で、他人にどう思われようが関係ない傾向が強いと思います。両者の考え方にはもちろん長所短所があるので好きなほうを選べば良いと思います。私がおっとも関心があるのは日本人の謙虚さや素直さ、責任感などの精神的な面です。精神的な面をブラジル人がもっと取り入れて自分の人生に活かしてほしいと思っています。例えば何か物事がうまくいかないとき、決して他人のせいとせず、自分の責任として受け止める。そして改善点、解決法を考えて実行する。そういった考え方や受け止め方をもっと取り入れてほしいと思いますね。

最後に県内のブラジル人、日本人にメッセージをお願いします。

日本に暮らすブラジル人の多くは製造業の現場でがんばっています。自分が作ったものが日本で活躍し、世界でも活躍しているのを感じて、自信をもってほしいと思います。

日本のみなさんにも日本の優れた精神性を次の世代にも受け渡ししながら、世界にもどんどん発信してほしいと思います。

地元の治安が悪化したんですね。家が強盗に入られたのをきっかけに両親と近江八幡に移り住むことになりました。両親は治安が落ち着いたならブラジルに戻るつもりでいました。

ブラジルでは貧しい人も多く、裸足の子もたちがたくさんいたことや道路がでこぼこだったこと、初恋や風揚げをして遊んでいたこと、両親が仕事をがんばっている姿などが今もいい記憶として残っています。

日本にきて間もない頃は日本語がまったくわからず、学校に行ってもみんなの会話が雑音にしか聞こえませんでした。放課後居残り勉強したり、家で日本語の特訓をしたりしました。日本語に自信をもつことができたのは勉強を始めて4年くらいたったときのことです。

日本で高校、大学と進学されましたが、苦勞されたことはなかったですか。

ある程度日本語が分かっているつもりだったので、語学に関してはさほど苦勞は感じませんでした。受験のためにひたすら記憶をするという勉強にはさすがにこずりました。まあ、これも日本のやり方なので仕方がないことでしたが、ただ、大学に入ってからには好き放題しました。

幼いころから経営者に憧れていたもので、自分のためになることはほとんどしてきました。アメリカやオーストラリア、上海などに語学研修にいたり、スピーチコンテストに出場したりしていました。経営者の本もできるだけ読みました。最近分かったことですが、本でたくさん勉強するのはいいですが、やはり実践を通じた勉強こそが本物の勉強だと感じます。例えば泳ぎ方を本でいくら勉強したって実際に入って泳がないと上達しません。そこではじめて水の感触や温度、こうすれば早く泳げるという方法が見つかるというもの。今の会社で私は実践を学んでいるところです。

大学生時の就職活動はどんな考えですか

ブラジル食料品店PATRIA MINHAについてお話をいただけますか。

父が会社を興したのは15年ほど前になりました。はじめはブラジルの輸入食材などをトラックに積んで、県内のブラジル人向けに移動販売をするかたちをとっていました。

そして2004年、移動販売から店舗という新しい業態を始めます。1号店を湖南市にオープンし、2年後の2006年に、2号店を東近江市にオープンしました。

ちなみにトラックでの移動販売は現在も続いている兵庫、京都、大阪、三重など、ブラジル人がたくさん住んでいる地域を5台でまわっています。仕事が忙しくてなかなか時間がつかれない人や車などの移動手段のない人にトラックは活躍しています。

扱っておられるのは何ですか。

主に食料品です。日本人が外国暮らしをしたときに、お米や味噌などの調味料が欠かせないように、ブラジル人にとっても日常の食卓に欠かせないものを中心に揃えています。食料品以外のものを全部合わせると6000アイテムくらいあると思います。

商品の多くはブラジルから輸入されたものですが、厨房ではブラジル人が好むコロッケやフランスパンなども焼いて販売しています。

お父さんの仕事を手伝われるようになった経緯は？

大学を卒業して日本の企業に就職しましたが、自分のやりたいことと違っていただけ、うまくいきませんでした。そこを辞めたとき、ちょうど1店舗目の店の立ち上げと重なっていたため、必然的に父を手伝うようになったのです。今は本社と2つの店舗を主に全体のバランスを見たり、人手が足りないときなどは、サポートに行ったりしています。

来日のきっかけについて聞かせていただけますか。

9歳までブラジルのパラ州にいたのですが、